

## オンライン方式等のメリット・デメリット

	Web会議	テレビ会議（※）	映像教材（DVD教材）	eラーニング
メリット	・（必要な機材と通信環境が整備されていれば）全国どこからでも参加が容易		・（個別に視聴させる場合には）いつでも視聴が可能（時間的自由度が高い）	・いつでも受講が可能（時間的自由度が高い）
	・移動の時間とコストの節約	・移動の時間とコストの節約	・移動の時間とコストの節約	・移動の時間とコストの節約
	・双方向でのやりとりが比較的容易	・双方向のやりとりは可能		
	・（ブレイクアウト機能を使えば）グループに分けた討議等にも対応可能			
		・既存の機器を活用することで初期投資が不要	・（個別に視聴させる場合には）何度も視聴することで理解度が高まることが期待できる ・一度作成した教材は、内容に変更がない限り繰り返し利用可能	・自分のペースや達成度に応じて自由に学習を進めることができる ・一度制作した教材は、内容に変更がない限り繰り返し利用可能
			・一定の講義の質を保つことができ、全国均一な研修内容の提供が可能	・教材の印刷代、送料等のコストが掛からない ・必ずしも講師を必要としない
デメリット		・通信環境が比較的安定している		・学習管理システム（LMS）により、研修員の進捗状況、成績等の管理やテスト結果などのフィードバックが即座に確認できる
	・（参集方式に比べ）研修員同士の横のつながりが作りにくい	・研修員同士の横のつながりが作りにくい	・研修員同士の横のつながりができない	・研修員同士の横のつながりができない
		・双方向のやりとりはできるものの、多数のグループに分けることができず、グループのメンバー数が多くなりディスカッションが難しい	・双方向のやりとり（質疑応答やディスカッション）ができない	・双方向のやりとり（質疑応答やディスカッション）ができない
	・実習型（ロールプレイ等）の研修に不向き	・実習型（ロールプレイ等）や討議型の研修に不向き	・実習型（ロールプレイ等）や討議型の研修に対応できない	・実習型（ロールプレイ等）や討議型の研修に対応できない
	・必要な機材調達のための初期費用を要する	・テレビ会議システム未整備庁からの参加が難しい（整備庁への移動コスト等が生ずる）	・（個別に視聴させる場合には）受講ベース等が研修員の自主性に委ねられるため、モチベーションや集中力を維持するのが難しい ・教材制作及び送付のコストが掛かる ・一度作成した教材の更新が難しい	・受講ベース等が研修員の自主性に委ねられるため、モチベーションや集中力を維持するのが難しい ・教材を制作する手間やコストが掛かる ・学習履歴や教材を配信・管理するための学習管理システム（LMS）が必要（そのためのコストが掛かる）
	・各庁での会場の確保が必要	・各庁での会場の確保が必要 ・多地点接続の予約が困難（事件処理が優先）		
	・インターネットの通信環境の影響を受けやすい			

※現在裁判所に整備されている現況を前提